

## 会議報告書

会議名	令和7年度第3回白井市郷土資料館運営協議会会議		
場所	白井市文化センター2階 かおりホール (中ホール)	日時	令和8年2月19日(木) 15:30~17:00
報告者	郷土・プラネタリウム班	職・氏名	学芸員 遠藤 愛佳
出席者	(委員) 倉田委員(会長) 古里委員(副会長)・鈴木委員・横山委員・川島委員・森山委員・杉原委員(7名)  (事務局) 郷土資料館 高花館長 遠藤学芸員 石戸学芸員 生涯学習課 戸谷副主幹 大規模改修準備室 佐山主査	傍聴者	0名

### 1. 開 会

### 2. 議 題

白井市郷土資料館設置管理条例施行規則第10条により、会長が会議の議長となる

#### (1) 令和7年度事業実施状況報告について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明を行う

#### [主な質疑応答]

会 長：昨年度より開館日数は増えて、利用者数が減っているようであるが、何か原因があるか。

事務局：企画展は今年度はないので、減る要因になったと捉えている。一方で、例年だと1~2月の利用者は減るが、今年度はウマ娘コラボの関係で逆に増えている。

委 員：新規寄贈資料について主なものはどのようなものであるか。

事務局：主に日中戦争周辺の時代のものであり、昭和12年頃の資料である。そのほか生活資料や子どもや学校についての資料がある。

会 長：書籍の販売数は増えているか。図録が多いのか。

事務局：図録は順調に販売できている。昨年度との販売数と比べると大きくは変わらない。売り切れのものも出てきているので図録はその補完となるような形である。

～ 以上で令和7年度事業実施状況報告についての質疑終了 ～

#### (2) 令和8年度事業計画(案)について

資料に基づき事務局(郷土)より説明を行う

#### [主な質疑応答]

委 員：教育普及事業は例年通りのようであるが、新規事業の考えはあるか。

事務局：概ね例年通りである。企画展開催年であるので、古文書修補活動20周年を記念した企画展を予定している。

会 長：資料調査・収集・整理のところは通年となっている。資料調査や資料の蓄積が重要だと考えるが、活動が不明瞭である。

事務局：人員の問題などで進めにくい状況である。また、資料の収集については収蔵庫が満杯

になっているという問題もあり、大規模改修で収蔵庫を広げることは検討しているものの、現状特に大型の新規資料の受け入れは難しい。

会 長：白井はまだ資料の散逸は免れていると思う。廃棄される前に手を打つのは非常に重要である。収蔵施設の建設などの話は出てきているのか。

事務局：公共施設用地の関係の寄付のような話が出た際は、手を挙げているが、なかなかうまく進まない。現実的には大規模改修の際に収蔵庫を広げてからになると思う。

会 長：大規模改修で収蔵庫は増えると思うが、面積が膨大に増えるというわけではない。将来を見据えると、市が音頭をとって収蔵設備を作っていくか、資料がどんどん失われる危険性が非常に高くなるのではないかと考える。

委 員：郷土資料館としてはどのような資料を収集していくのか方針はあるか。私見でも構わないが、テーマごとに集めるのか、形あるものを残していくのか、考えを知りたい。

事務局：平成15～20年にかけて常設展を整備したが、見直しをかけていくのならば、それのみあう資料の収集も必要になると考える。例えば、江戸時代であれば、馬関係のものを集めるというのも特色になる。また、民俗については、白井のニュータウン関係のもの、昭和の生活に関する資料も収集したほうがよいと考える。

～ 以上で令和8年度事業計画（案）についての質疑終了 ～

### （3）文化センター大規模改修基本計画素案について

資料に基づき事務局（準備室）より説明

委 員：資料には「サウンディングの結果を踏まえた」という文言が多数出てくる。事業者サウンディングは、どのような位置づけをしているのか不明瞭であるので、教えていただきたい。また、前回会議で運営を民間に委託するかどうかという重要なことを、口頭で説明されていたが、改めてどのようにして民間委託という話が出てきたか説明いただきたい。行政が主体的に舵をとる姿勢が見られない。行政側としての立ち位置を明確にして、事業者がどう関わるのか、どういうことを求めているのか詳しく説明していただきたい。

委 員：それに関連して事業概要書の郷土資料館維持管理業務について、資料展示業務・収集業務・文化財調査すべて指定管理の業務として検討するというところに大変驚いている。説明資料には民間に実施を期待する事業や取り組みでここに何も継続する事業はないと説明していて矛盾しているのではないかと。事業概要書は民間の事業者も見ていると思うが、委員への説明資料の中では詳細な説明がないので、詳しく聞きたい。

準備室：まず、事業者サウンディングの位置付けについて、行政計画的な部分からお話しする。高度経済成長期から一転して少子高齢化・人口減少となり、施設を作っても利用する人がいない、限られた人やお金でどう維持していくかという時代になっている。市も高齢化に伴い税収が減り、医療など福祉費の支出が増えるなどして、今までの施設運営が立ち行かないようになっていく。しかし、行政は建物の維持管理のお金のかけ方や手法についてはあまり得意とは言えない。そのため、ノウハウを持っている民間に意見を求めたいと考えている。また、関連計画の公共施設等総合関連計画において民間連携手法や維持管理のアウトソーシング化が含まれているので、文化センターにおいても直営にすべきか民間に委託できるのかの検討は必要であり、情報収集としてサウンディングをした次第である。

郷土資料館の機能的な部分や改修内容については、サウンディングに盛り込んで、基本的に前回会議で審議し挙げられたものは基本計画に入れていくという方針であり、アンケート結果も大事にしていきたいと考えている。

行政の主体性については、現時点においては、市として実施する事業や取り組みのど

ここで、継続する事業としては今までの事業は市として実施する取組として整理をしているように、郷土資料館についても直営で進めていく方がよいと考えている。理由として、寄託等されている資料の所有者との信頼関係もあり、これまで運営してきたノウハウもある。民間では一から白井について学ぶことになり、非効率であると考えからである。なお、事業概要書に郷土資料館について維持管理業務を入れたことはあくまで例示であり、民間事業者から直接意見を聞き、できることできないことを整理するためである。

委員：直営で検討しているということで安心したが、生涯学習施設としてどうあるべきかをぜひとも明確にしてほしい。

会長：白井市は文化施設が学校と同様に社会共通資本だということが抜け落ちている。特に学芸業務を民間に委託するということは、白井市の歴史を継続的に調査・保存し、未来につなげていく業務であるため不可能と考える。

準備室：民営化するといっても、社会教育的なところ、市の意見、意志を持ち、業者と付き合いながら、運営していくことになろうと考えている。市としての理念はどうかという点については、教育委員会としては第二次教育振興基本計画が進められているが、市全体の運営としてみていくと福祉・医療などに予算が割かれている。理念があっても財政上難しいところがあるが、予算を確保できるように働きかけたい。

～以上で、文化センター大規模改修基本計画素案についての質疑終了～

### 3. その他

準備室：3月末頃までを目標に基本計画の素案をまとめ、その後パブリックコメントを予定している。パブリックコメントに提出する内容が出来た段階で、皆様の方にも共有させていただきたいと考えている。

委員：基本計画の素案は、市民も参加する審議会で諮るのか。

準備室：本計画案についての市民が入っている審議会というところは予定していない。パブリックコメントを受けて、内容を修正して、政策決定会議で更に審議して、計画してまとめる予定である。

委員：素案についてどこかで市民の意見聴取の設けた方がよいのではないか。

館長：なんらかの形でその市民の意見を聞ける場等を設けるべきかどうか検討していきたい。

委員：資料館の展示内容のデザインなどの計画や設計はこれからどこに組み込まれていくのか。未定であるか。

館長：具体的なことは未定である。基本実施設計の中でどれだけできるか決まってくるため、それを踏まえてリニューアルを検討していく。

### 4. 閉会

事務局：その他なければ本日の会議はこれで終了させていただきたいと思う。(終)